

春季特別企画 |



# なんのいろ? どんないろ?



2014.3.21(祝・金) …… 5.11(日)  
休館日 | 4/14. 21. 5/7

※プログラムの内容は予告なく変更する場合があります。  
詳しくは当日の館内表示、HPをご覧ください。

## ●みんなであそぶプログラム

随時参加受付 (10:00~16:00)  
様々な色のへやでいろいろなプログラムが展開します。  
○いろのへや  
他にも色のあそびが登場します。  
○いろさがし ○土のいろ ○いろチップ ○いろまきバ  
○いろのアニメ など

## ●あつまるあそぶプログラム

土日祝 (14:00~14:30、15:00~15:30)  
いろいろな色のあそびをします。○イロトリドリ など

## ●たべるあそぶプログラム

日曜日 (11:00~12:00、14:00~15:00)  
いろいろな食材の「色」を味わいます。○いろあじ など

## ●特別プログラム

5/3(土)、4(日)  
GW期間中、児童福祉週間にちなみ、  
特別プログラムを開催します!

お募集  
知らせ



## ●移動児童館・ゆめたま号

愛知県児童総合センターのあそびとスタッフを「ゆめたま号」  
に乗せて、県内の児童館などへ運び、現地のスタッフとともに  
地域の子ども・大人と遊ぶプログラムを提案します。  
※平成26年度の案内と募集は県内市町村の児童福祉担当課を通じて  
4月頃お知らせする予定です。

## ●親子であそぶ トコトコプログラム

「大人がたのしいとこどもはうれしい」を合い言葉に、小さな子  
どもと「お母さんやお父さんが楽しむ」プログラムです。感覚的  
なあそびを中心に、いろいろなあそびを親子で体験します。

◎3/5(水) …かみであそぶ ◎3/12(水) …つみきであそぶ  
対象: 1歳から3歳の未就園の子どもと親 定員: 15組程度  
参加: 無料、プログラム開始30分前より受付。  
※児童総合センター入場料300円必要。時間、詳細はHPをご覧ください。



## ●愛知県児童総合センター



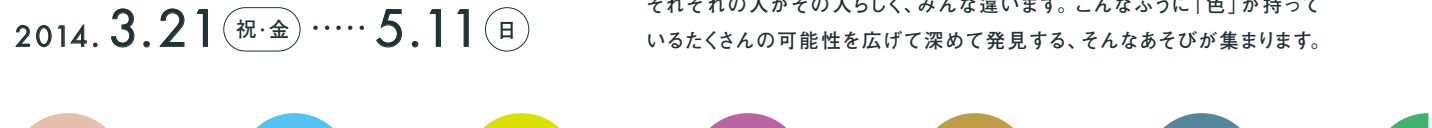
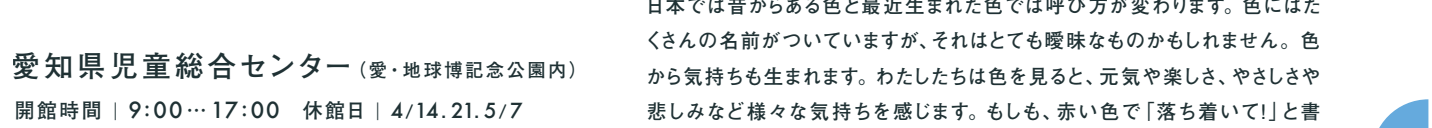
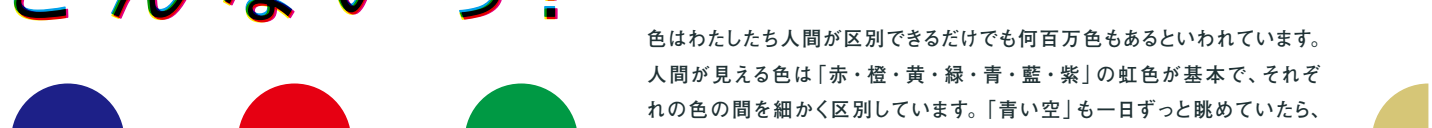
〒480-1342  
愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1  
TEL 0561-63-1110  
E-mail info@acc-aichi.org  
http://www.acc-aichi.org/

開館時間 = 9:00 - 17:00  
入場料 = 中学生以下無料、その他300円

3月の休館日 = 3、10、17日  
4月の休館日 = 14、21日  
5月の休館日 = 7、12、19、26日

公共交通 地下鉄東山線「藤が丘」、愛知環状鉄道「八草」から  
機関で … リニモ「愛・地球博記念公園」駅下車  
車で … 東名高速・日進JCT経由名古屋瀬戸道路長久手ICから  
足助方面すぐ 愛・地球博記念公園 北駐車場利用)

愛知県児童総合センター | 春季特別企画 |



# なんのいろ? どんないろ?

愛知県児童総合センター (愛・地球博記念公園内)

開館時間 | 9:00 … 17:00 休館日 | 4/14. 21. 5/7

入場料 | 中学生以下無料、その他300円

主催 | 愛知県児童総合センター(公益財団法人愛知公園協会)

2014.3.21(祝・金) …… 5.11(日)

色はわたしたち人間が区別できるだけでも何百万色もあるといわれています。  
人間が見える色は「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の虹色が基本で、それぞ  
れの色の間を細かく区別しています。「青い空」も一日ずっと眺めていたら、  
朝から昼、夕方から夜へ、刻々と色を変えていきます。身の回りで使われる、  
名前のついている色は数千色。同じ色でも国によって呼び方が変わるし、  
日本では昔からある色と最近生まれた色では呼び方が変わります。色にはた  
くさんの名前がついていますが、それはとても曖昧なものかもしれません。色  
から気持ちも生まれます。わたしたちは色を見ると、元気や楽しさ、やさしさや  
悲しみなど様々な気持ちを感じます。もしも、赤い色で「落ち着いて!」と書  
かれていたら、ちょっとドキッとしませんか?そして、十人十色。同じように見  
える色もじっくりよく見てみると、その微妙な違いに気がつくように、私たちが  
それぞれの人がその人らしく、みんな違います。こんなふうに「色」が持つ  
ているたくさんの可能性を広げて深めて発見する、そんなあそびが集まります。

子どもととな、ドキドキ発見!

# ACC

Aichi Children's Center

# レター

News Letter vol.

2014 春 15

春季特別企画

なんのいろ?どんないろ?

児童館のネットワーク

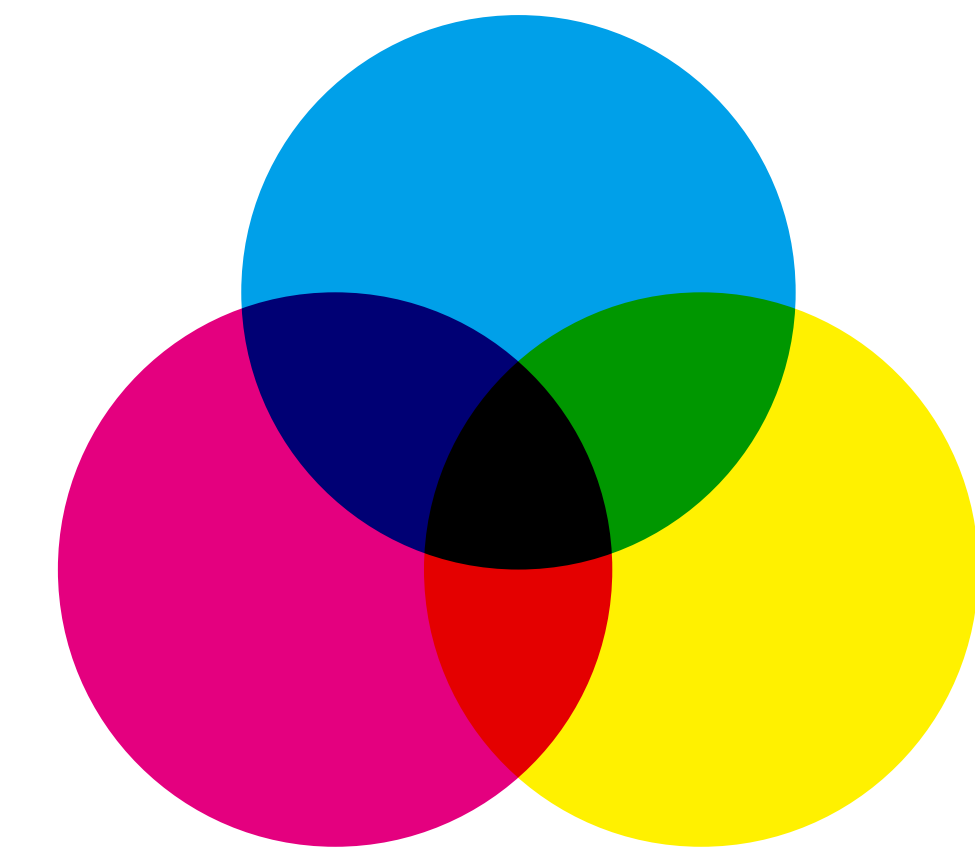
ちずであそぶ

大学連携プログラム

子育てのおはなし 第15話

ACCののぞきあな

募集とお知らせ







# 児童館のネットワーク

愛知県には約300の児童館があり、全国的に見た場合、3番目に多い県になります。そして、そこには遊びにくるいろんな子どもたちや子育て中の親たちと、日々向きあっているたくさんの職員がいます。

愛知県児童総合センターもそんな児童館のひとつです。さまざまなあそびのプログラムを実施するだけでなく、愛知県立の大型児童館として県内の児童館の中核になり、児童館や児童館職員のネットワークをつなぐような活動もしています。児童館で働く職員に対する研修はそれぞれの市町村ごとに行われていますが、県内の児童館活動をより良いものにするために組織された、愛知県児童連絡協議会が、40年以上、児童館の職員の研修や情報交換をおこなってきています。

また、2009年からは「元気スイッチon!!あつまれ!あいちのじどうかん」という県内の児童館が一堂に会する研究協議・交流大会をモリコロパークで開催するようになりました。大会名には、子どもたちが、子育て中の親たちが、それを取り巻く地域が、そして児童館で働く職員たちが、元気につながるようにという思いが込められています。市町村の児童館でそれぞれ活動している児童館職員有志が企画運営する大会なので、現場目線に立ち、子どもたちの育ちを支えるための知識や技術を高めつつ、日ごろの活動への思いを語り、分かち合い、お互いの環境や地域性の違いを認めながらつながっていきけるようなものになっています。あわせて、それぞれの児童館でイチオシのあそびを体験できるコーナーでは、親子でさまざまなあそびを

楽しんでもらうだけでなく、職員同士も新しいあそびを体験し、お互いに情報交換をおこなっています。

このような活動を通じてできたネットワークを活かし、2012年10月には全国の児童館・児童クラブ職員を対象にした「第12回 全国児童館・児童クラブあいち大会」を開催しました。大会を企画運営する過程や全国各地でのさまざまな事例や取り組みに接することで、子どもにかかわるプロとして、さらに広い視野も持って児童館での活動を見つめなおすことができました。

職員同士が顔の見えるネットワークでつながっていることは、市町村の枠を超えた自主活動をおこなうグループへの活動へとつながっています。児童館活動に活かせるような新しいジャンルの研修会に参加したり、自主的な勉強会や情報交換などをおこない、自分たちの児童館での活動にフィードバックしている職員もいます。それだけではなく、3年前に開催された全国児童館・児童クラブ大会にあそびのブースを出店したことをスタートに、昨年末に福島県で開催された 全国大会では有志により分科会のひとつを担当することになりました。今後は県内の児童館の活動がさらに良いものになるように、このような自主的なネットワークを活かした活動も予定しています。

児童館には、このようなネットワークを活かして、子どもたちや子育て中のお母さん、お父さんが笑顔になれるような活動をしている職員がたくさんいます。ぜひ地域にある児童館の活動にも参加してみてください。

【冬季特別企画】

# ちずであそぶ

身近にある便利な道具としての地図。  
道順や場所を知るだけではない、  
「ちず」そのものが持つおもしろさをテーマに、新しいあそびを考えました。  
誰も知らない場所の地図、自分の気持ち、音や手触りなど  
いろいろな視点の「ちず」が生まれました。



**あそびのカード**  
カードの地図をみて、いろいろな場所へあそびを探しにでかけます。



**わたしのきもちず**  
自分の今の気持ちを言葉や色、模様で描いてみます。



### 地図分解

いろいろな場所の地図をバラバラにした線をつけて道にして、地図から新しい地図をつくります。



### つちず

切り糸で土の粘土を切ることができるおもしろいかたちを並べると、大きな街の地図にみえてきます。



### 音マップ

音や手触りを楽しんで、気がついたことを地図に書いて、自分だけの感覚マップをつくります。



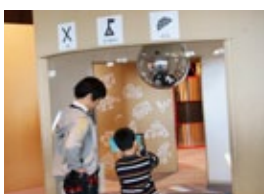
### さがすーぶ

館内にちらばった食材を集めて、スープをつくります。



### みつけてみよう こどこ?

写真をたよりに場所をみつけて、自分の地図に書き込みます。



### ちずのマーク

地図記号をみて、気に入ったものをメモします。



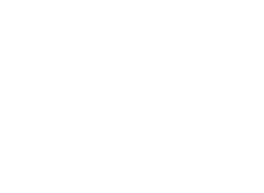
### うごく!モノのまち

筆やはさみ、紐にボウルなど身近にあるものを並べたり重ねたりして街をつくり、その様子をコマ撮りしてみても、生き物のように変化し続ける街の様子が楽しめます。



### 道スタンプ

館内にちらばった道のスタンプを押してつなげて、スタンプだけで新しい地図をつくります。



このあそびは平成25年度冬季特別企画として実施しました。(2013/12/21 - 2014/1/19)

特集：大学連携プログラム

## 大学との連携

冬季特別企画「ちずであそぶ」にあわせ、名古屋芸術大学と椋山女学園大学の学生たちと愛知県児童総合センター(以下、センター)が連携し、新しいちずのあそびを考え、実施しました。



### 名古屋芸術大学のプログラム : 名古屋芸術大学美術学部アートクリエイターコース、美術文化コース

2年生と1年生で二日間にわたり、10年後の地図をつくる「未来の地図をつくってみよう」(写1)、土の粘土を足で楽しむ「ふみふみべたべた どんな道ができるかな」(写2)、大人と子どもの宝さがし「みつけてつなげて」(写3)、血管をペンでなぞる「けっかんをなぞってみよう」(写4)、球の上にいるような世界をつくる「球体地図」(写5)、懐中電灯を使った「電灯探検隊」(写6)の6つのプログラムを行いました。地図というテーマに直球でこたえたり、変化球やあるいは全く違う角度から発想されたあそびがそろい、センタースタッフにとっても刺激のある内容になりました。

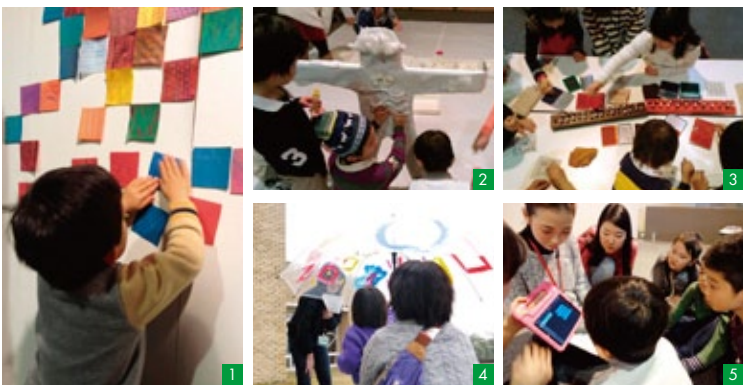
前田ちま子 教授

学生たちは、子どもたちに楽しい活動をしてほしいと、新しいプログラムの提案に挑戦しました。発想したものを実現するには、アイデアに問題点を見つけ、具体的な素材や道具の吟味が必要で、それがいかに大変かを実感しました。実施日には、子どもたちと粘土で遊んだり、未来の想像図を一緒に描いたり、心から楽しむことができました。しかし、そこにいたるまでには、スタッフの経験にもとづく専門的なご意見があったことを大いに感謝した大変貴重な「連携」でした。

「みつけてつなげて」を実施しました。子どもが隠して大人が探す。子どもの指示で大人が動く。いつもと立場を交えるだけで、子ども達がとても遅く見えました。あそびのなかから、子どもと大人と一緒に楽しいと思える時間の大切さを学びました。/ 古屋なみか(2年生)

「ふみふみべたべた どんな道ができるかな」では、冷たい、気持ちいい、楽しい、土粘土を横足になって踏む事で、ひんやりとした感触と素材本来の質感を味わう事ができました。大人も子どもも夢中になって遊ぶ姿が印象的でした。最後は粘土を道のように四方へ広がり、その上に靴底の不規則な模様を美しく表れました。/ 森下未由記(2年生)

「未来の地図をつくってみよう」は、10年後を想像しながら、100人以上の人に乗り物、家、道、動物、虫、木、家族、友達などを描いてもらいました。一枚の白い紙は、明るく未来がくることを予感させる、色あざやかな地図になりました。/ 金武展子(科目専履修生)



### 椋山女学園大学のプログラム : 椋山女学園大学文化情報学部メディア情報学科

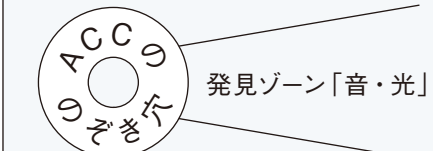
何度もセンターに足を運び、テストを繰り返し、少しずつ内容を積み上げていきました。館内の模様をつめる「もようちず」(写1)、いろいろな素材でからだの感触をあらわした「からだのちず」(写2)、スタンプだけで地図をつくる「スタンプマップ」(写3)、傘と雨と地図をつなげた「まわす」(写4)、アプリケーションを利用した「音のちず」(写5)の5つのプログラムは、今後デジタルコンテンツを利用するなどさらなる発展の可能性も感じさせる、魅力的な内容となりました。

## 子育てのおはなし

臨床心理士 後藤 かをり

第15話

## 親子の深いかわりを



### 発見ゾーン「音・光」

少し暗くて不思議な音のする、ここは発見ゾーン「音・光」の部屋です。おそろおそろ踏み込んだ子どもたちはかがみの迷路、光のカベ、あそびステーションへつながるシースルートンネルなど次々現れるしかけに夢中になります。のぞきあなからは梶千春さんの作品「KAJI FACTORY」がみえます。大人はしゃがんで、子どもは背伸びしてのぞく世界はどんなふうに見えるのかな?

お話ししてくれたのは、宮所輝樹くん、亀田涼葉ちゃん・悠莉ちゃんです。

他者と出会い、他者と関わり、「あそび」というメディアを介して学ぶこと。 宮下十有 講師

今回の連携でのあそびの立案、提案、シナリオ制作、試行、本番というプロセスで、センタースタッフの方々やあそびの参加者の皆さんなど、学生たちがこれまで関わりのなかった他者に出会いました。そうした他者に「自分たちのあそびの面白さをどう伝えるか。」という試行錯誤は「メディア」を専門的に学ぶ学生に、大学での学びを実践に生かすチャンスになりました。「あそび」を介して他者と関わることで、「あそび」はセンターと参加者の方々、学生とをつなぐメディアであることに多くの学生が気づきました。こうした学生が自らの力で気づき、発見することが、連携したからこそできた大きな学びでした。

**もようちず**  
こすりだした模様が集まっていく様子が感動的でした。でも、あそびを考えるのは難しく、大変さを知りました。そして、年齢に関係なく自分らの楽しみ方を見つけていて、あそびの中にたくさんの可能性があることも気づけました。(下川千夏、榎原有佳子 他5名)

**からだのちず**  
大人が楽しいものは子どもも楽しい。今回一番感じたことです。また、誰も思いつかなかった、素材を組み合わせて、新しいものをつくります、子どもの驚きの発想に出会えて嬉しかったです。(大藪知佳、山本麻衣 他5名)

**スタンプマップ**  
今回の体験で、あそびは難しくなくてもいいんだと気づきました。簡単だけひとり一人違う地図ができ、みんなとつなげていくと「本当だ! つながった!」「楽しかった!」という声があり、とてもやりがいを感じました。(家田真帆、松下知香 他6名)

**まわす**  
流れ落ちるしずくと地図をつなげてこのあそびを考えました。当日雨も降り、子どもも大人もワクワクと固唾を飲んで雨粒を見守り、傘に描いた模様がだんだんと流れカラフルな道ができ地図になる様子をじっくり楽しみました。(佐藤理恵 他2名)

**音のちず**  
音を聞くと、その場所の特徴が聞きとれて面白かったです。目で見ると普通の地図と違うからこそ楽しいけれど、内容の組立てに苦労もありました。「遊ばせる」のではなく「一緒に遊ぶ、楽しむ」ことが自然にでき、その大事さも感じました。(大谷実希、長江早貴子 他7名)

トイレトレーニングに悩むお母さん方にはいつも「大人になっておムツしてる人はないから大丈夫」と話してきました。それは今その通りと思うのですが、かといって、「おしこはトイレでしょうね」と話しかけるとか、おしっこが出る時間を見計らってトイレに誘うとか、「あら、出ちゃったわね」と床をふくのを見せるとかの親子の関わりまでなくなってしまうのはもったいないことです。小さい子の生活の中で、ごはんをスプーンやお箸で食べることなど、世の中での生活の仕方を教えることは、子どもと深くかかわる絶好のチャンスです。必ずしも大人の望むことと子どもの望むことが同じ方向を向いていない時にこそ、親子のつながりを強めます。ぜひその攻防を楽しんでください。いつかはできるようになるのでですから安心して、焦らずに。



ミーティングを重ねることで、ネットワークもより強くなりました。



たくさんの児童館が集まって、普段はできない大きなことも



新しいあそびのプログラムの情報交換